

親泊教授監修映画

『アメリカ・ワイルド』

AMERICA WILD

5月19日に二子玉川シネマズにて、オフ・トレイル・アドベンチャー映画『アメリカ・ワイルド』のプレミア上映会が行われた。監修をつとめた江戸川大学社会学部長で国立公園研究所所長の親泊素子教授も列席した。



江戸川大学教授
親泊素子



筑波大学教授
伊藤太一



日本版案内人
小澤征悦



冒険写真家
マックス・ロウ

© Dmitri Fomin

『アメリカ・ワイルド』は、アメリカの国立公園制度誕生100周年を記念して作られた映画だ。親泊素子先生は、監修者として映画を日本語版にするときのアドバイザーやチェックなど重要な役割をはたした。

プレミア上映会にさまたち、メディア懇親会が開催され、江戸川大学国立公園研究所客員教授・筑波大学教授の伊藤太一先生が、アメリカの国立公園局や国立公園のシステム、ヨセミテ

やイエローストーン国立公園などについての講演を行った。

プレミア上映会では、この映画の日本版の案内人を務めたサンフランシスコ出身の小澤征悦さんと映画に登場する冒険写真家であるマックス・ロウさんが登壇し、アメリカ・ワイルドについて語った。

小澤さんは「ぜひ子供たちに見てもらいたい。この映画を見て自然、動物とか植物とかに興味を持ってもらって、アメリカに行こうってなって、そういう幸せの連鎖が生まれればうれしい」と挨拶した。

駐日米国大使であるキャロライン・ケネディさんからのビデオメッセージも寄せられた。自然の保護の大切さやそのための活動などを話し、最後に「皆さん、ぜひ国立公園に来てください」とPRも。

マックスさんは「野生の自然と環境、保護されるべき自然の美しさ、野生動物の重要さをみんなに伝えたい」という。

映画本編は43分。現在アメリカ国内に408ある国立公園の中から、レッドウッド、イエローストーン、ヨセミなど10以上の公園が選ばれ、高画質なIMAXカメラで撮影されている。さらに上映もIMAX方式の大画面3Dだ。

マックスさんと、登山家コンラッド・アンカーさん、画家レイチェル・ポールさん3人が、スビルバーク監督作品『未知との遭遇』のロケ地にもなっているワイオミング州のデビルズタワーのクライミングに挑むシーンは迫力満点だ。滑りやすいびつな山肌を登っていく様子は、見ている方も手が汗ばむ。

画面近くまで寄ってくるプレーリードックや餌をこるのに悪戦苦闘する小熊のシーンには癒やされる。ほかにも徒歩、アイスクライミング、マウンテンバイクと様々な方法で国立公園の絶景を巡る。上映中はまるで自分も国立公園の中に入っているようだ。

さらに、国立公園制度の発端であるセオドア・ルーズベルト元大統領と「自然保護の父」と言われるジョン・ミーアとの出会いの話を体感することができる。映画配給元のさらい代表取締役の楠見忠司さんによれば、この映画の見所は「目の前に迫ってくる映像」とのこと。親泊先生も「なにしろ迫力がある！今度はずミの学生を連れて見に行きます」と映像の臨場感に驚いていた。

「3Dの迫力はすごい」「自分がそこにいるように」「動物がかわいい」と観客たちも興奮しながら会場を後にした。

『アメリカ・ワイルド』は全国16か所ので5月21日(土)から公開された。(撮影・取材:石井蓮)